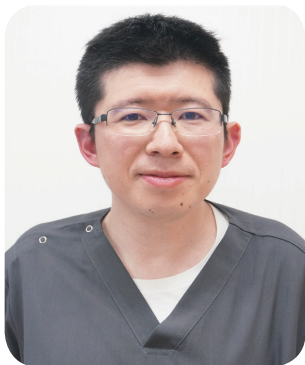


脳梗塞・心筋梗塞の兆候を 見極める「頸動脈エコー検査」

けいどうみゃく



西村内科脳神経外科病院
西村 振一郎 先生

日本人の死因の上位に挙がる「脳梗塞」や「心筋梗塞」。これらに「なりやすいか」を評価する一つの方法として「頸動脈エコー検査」があることを存じますか。西村内科脳神経外科病院にお話を伺いました。

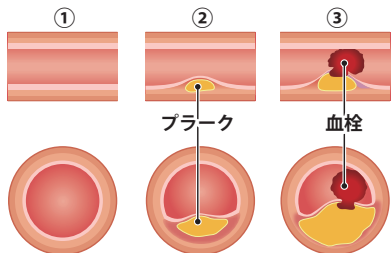
—— 脳梗塞や心筋梗塞になりやすいのは、どのような人ですか？

西村 これらの病気のおもな原因は、動脈硬化によって脳や心臓の血管が詰まることで起こります。その発生リスクが高いのは、血液中のコレステロール値が高い「脂質異常症」や「高血圧」「糖

尿病」「メタボリックシンドローム」の方など。動脈硬化は少しずつ進行するため、早期に発見するためにも当院では「頸動脈エコー検査」を取り入れています。

—— どのような検査ですか？

西村 上向きに寝ていた



【図1】動脈硬化の進行（上／血管を横から見た図下／断面図） 動脈の壁は内膜・中膜・外膜の3層。脂質異常症等により内膜が傷み、厚くなることで「プラーク」が発生。柔らかいプラークは破れると血栓がつくれ急激に血管をふさぎます。時間が経つてプラークが固まり、血管を詰まらせることも。

かけて超音波を当て、頸動脈の動脈硬化の程度を確認します。頸動脈は脳や心臓の動脈と並行して動脈硬化が起るため、脳梗塞等の早期発見や、予防にもつながります。

保険適用で
体への負担も軽い

—— 大がかりな検査ではないから安心ですね。西村 はい。患者さんへの負担が少ないのも大きな

なメリット。被ばくも痛みもな、食事制限や、造影剤を投与する必要などもありません。時間は15〜20分程度、保険適用で行えます。

動脈硬化は、脂質異常症などにより血管の壁の一部が厚くなる「プラーク」と呼ばれるものので、エコー検査では、危ないプラークの有無や、血管がどの程度狭いか観察でき、その後の治療方針を

検討することができます。軽度の場合は食生活の改善や運動療法、投薬などによる治療で動脈硬化の進行を抑制します。脳梗塞等の危険性が高い場合には、病院をご紹介し、手術が必要になることもあります。

脳梗塞や心筋梗塞は急性のものだと、突然死・後遺症が残るケースも、左表に当てはまる人は、検査を受けておくことをおすすめします。

こんな人は脳梗塞や心筋梗塞に要注意

- コレステロール値が高い、脂質異常症
- 高血圧
- 糖尿病
- 肥満・メタボと診断された
- 喫煙・過度の飲酒がやめられないなど